

＜日商簿記 2 級工業簿記ミニテスト 13＞本社工場会計

＜問題＞

CMC 製作所(本社大阪：決算 3 月 31 日)は、川西市に工場をもっており、本社会計から 工場会計を独立させている。材料の発注と製品の販売は本社が行う。製品倉庫は本社にのみ存在する。本社からの材料搬入、工場からの製品発送に内部利益は付加していない。支払関連はすべて本社経理部にて行っている。なお、5 月 1 日における工場の元帳諸勘定残高は下記のとおりであった。

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
300,000		材 料		
500,000		仕 掛 品		
0		製 造 間 接 費		
0		賃 金		
		本 社		800,000
800,000		合 計		800,000

＜問 1＞

下記の(1)～(5)は、当製作所の 5 月 における 取引の一部である。工場および本社において行われる仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこととするが、工場で使用する勘定科目は上記残高試算表に示されているものに限る。なお、仕訳が必要ない場合には借方科目欄に「仕訳なし」と記入すること。

材		料	賃	金	製 造 間 接 費
仕	掛	品	製	品	本 社
予	算	差	異	操 業 度 差 異	工 場
減	価	償	却	費	建 物 減 価 償 却 累 計 額
買	掛	金	現	金	当 座 預 金

- (1) 掛けで購入した買入部品 1,000 個(購入価格 2,000 円/個)を倉庫に搬入した。なお、購入に際し、本社は、引取運賃として 30,000 円を現金で支払っている。
- (2) 当月の賃金の消費額を計上した。なお、直接工の作業時間報告書によれば加工時間 1,000 時間、段取時間 270 時間、間接作業時間 30 時間、手待時間 20 時間であった。当工場で適用する予定賃率は 1 時間当たり 1,300 円である。
- (3) 当月の工場建物の減価償却を行った。工場建物の減価償却費の年間見積額は 4,200,000 円であった。
- (4) 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、当工場の年間の製造間接費変動予算は、74,880,000 円(うち変動費 33,696,000 円)、年間の予定総直接作業時間は 15,600 時間である。
- (5) 当月の製造間接費の実際発生額は 6,180,000 円であったので、これにもとづき予定配賦で生じた差異を製造間接費勘定から予算差異勘定と操業度差異勘定に振り替えた。

<問2>CMC 製作所の差異分析の手法が固定予算であった場合の予算差異、操業度差異を答えなさい。

<解答>

工場の仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材料	2,030,000	本社	2,030,000
(2)	仕掛品 製造間接費	1,651,000 65,000	貸金	1,716,000
(3)	製造間接費	350,000	本社	350,000
(4)	仕掛品	6,096,000	製造間接費	6,096,000
(5)	本社	84,000	製造間接費	84,000

本社の仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	工場	2,030,000	買掛金 現金	2,000,000 30,000
(2)	仕訳なし			
(3)	工場	350,000	建物減価償却累計額	350,000
(4)	仕訳なし			
(5)	予算差異 操業度差異	4,800 79,200	工場	84,000

<問2>

固定予算を採用した場合の差異（有利差異は括弧内にF、不利差異はUと記すこと）

予算差異	60,000円 (F)
操業度差異	144,000円 (U)